

げんでん  
ふれあい **福井**

第20号

2004

AUTUMN



●創刊20号記念  
「財団の進路を拓く」座談会

●かるきと福井 松木庄左衛門(下)

●福井の文学界 女流俳人 哥川(三国町)

# プレフェスティバル 総合フェスティバル開催

10/24

県実委



町立三國中合唱部

来秋の「第20回国民文化祭・ふくい2005」に向け、開催気運を盛り上げようと、県実行委員会が主催して、大会1年前を記念した総合フェスティバルが、10月24日、サンatorium福井で開催されました。会場では、県民の文化活動の発表や福井県の魅力を詠んだ短歌を基にトークなどが行われました。

## 福井の魅力と決意を発信 公募の「新・ふくい和歌集」でトーク

大会は会場のメインホールに、県・市町村実行委・委員や文化団体の会員ら約千人が参加。進行は2部構成で行われ、本番の成功を目指し、その決意を新たにしています。

第一部では、開幕に先立ち、1階フロアの舞台中央に設けられたスクリーンに福井の文化と自然を紹介するVTRが上映され、福井の魅力を発信。開会式にうつり、国歌斉唱のあと、同実行委員会会長の西川知事が「夢と希望

が上級され、福井の魅力を発信。開会式にうつり、国歌斉唱のあと、同実行委員会会長の西川知事が「夢と希望



県民から募った「新・ふくい和歌集」をテーマに語りあうトークエキシビジョン

に満ちたふくいの文化を創造し、県民総参加による国民文化祭にしよう」と決意を表明。その後、総合ホスティングデザイン及びモニユメント制作アイデアの入賞者の表彰が行われました。

第2部の国民文化祭コンセプトセッションは、マリンバ演奏で開幕。鯖江市出身の平岡愛子さんが「故郷」「赤とんぼ」を演奏し、美しい音色は、会場を魅了しました。次いで、町立三國中学校合唱部40名による合唱が行われ、地元・安曇に伝わる海女の恋歌「なんぼや」が披露されました。

同祭の総合プロデューサー・山根一真さんが、国民文化祭ふくいのコンセプトに「糸」を選んだ理由として、福井県は織物や和紙など「糸」にゆかりのある仕事や産業の伝統があることに因んでいることの説明があり、中島みゆきさん作詞・作曲のイメージソング「糸」が披露されました。続いて、出向官伝などのキャンペーン活動を行う「文化



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆりのある地域づくりに寄与することを目的としています。本誌はこの主旨に従い県民のみならずとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

## CONTENTS/20

- 国民文化祭プレフェスティバル  
総合フェスティバル開催 2.3
- 創刊20号記念「財団の進路を拓く」座談会 4.5
- ふるさと福井人物シリーズ 松木庄左衛門(下) 6.7.8
- 福井の文学碑シリーズ11  
女流俳人 香川(三国町) 9
- 財団国際交流事業 英国中学生を招く 10.11
- ふくいの伝統芸能 「若狭能倉座の神事能」 12
- フクイデザインコンペティション2004公開審査会 13  
・人間国宝 茂山千作師を招き「狂言を楽しむ会」13
- 情報ファイル  
大和田伸也演出 敦賀初日公演 ほか 14.15

## FRONT COVER



福井県指定無形民俗文化財  
若狭能倉座の神事能  
(三方町)

8月20日、美浜町宮代に鎮座する物部神社の能舞台で五穀豊穡を祈る「風折能」が若狭能倉座によって奉納されました。表紙は、番組の最初に上演された福井県無形民俗文化財に指定されている「一人翁」の舞いです。

白色財の面をつけた翁が両手(袖)を広げて静かに舞台を左回りに所作し、両手下ろして左右と足拍手を3度踏み、舞います。

最後に両手を広げ「千秋萬歳」と謡い出し、地謡と掛合いに謡いながら進捗して、舞いを納めます。(本誌P12・伝統芸能シリーズ「若狭能倉座の神事能」を参照下さい。)



### 分野別 フェスティバル をスケッチ

音楽、文芸、美術などの分野別プレフェスティバルは、9月12日、マーチングバンド&パトントワリング部門を皮切りに、県内各地で11月末日にかけて開催され、1年後の本番に繋げる祭典にしようと、文化・芸術の秋を盛り上げました。



「リバーダンス」を演技する仁愛女子高校  
マーチングバンド部＝県営体育館

マーチングバンド&  
パトントワリング  
フェス

9/12



「かわいい女 グロッパ」を演奏する  
武生東高校 吹奏楽部＝県立音楽堂

吹奏楽の祭典

9/19



学生茶会に参加した生徒たち  
＝宮崎村会場

茶道  
フェスティバル

9/25  
26



「進化師のギャロップ」などを演奏する  
フクイマリンバクラブ＝朝日勤労者体育センター

室内楽  
(マリンバ) の祭典

10/30

### 福井の良さを再認識

同実行委員会が福井の風土や文化への思い、福井素雨の体験等を読み込んだ短歌を募集した「新・ふくい和歌集」の入賞作をテーマに、山根一眞さん、児嶋眞平・福井大学学長、フリーアナ

大使」5人が紹介され、大会への意気込みを披露しました。



地元につながる少女の恋歌を披露する

人の心の豊かさや、方言などを通じてふるさとへの温かさがひしひしと伝わる」などと語り合われました。また「福井素雨」部門では、「豪雨災害にも負けずに、元氣な福井が生きている」などと評価され、福井の魅力を発信する、意義あるトークで、来場者は福井の風土や文化の良さを再認識していました。

ウンサー・早見英里子さんによるトークエキシビジョンを展開。「郷土部門」で最優秀作に選ばれた「若狭湾大漁旗が並んでいる漁師の数だけ夢がある」(美浜町・中村真一郎さん作)をはじめ優秀作などが詠みあげられ、作者の創作動機や心境をインタビュールし、「郷土の誇り、美しい自然や文化が詠み込まれている」、「県



祭典のフィナーレを飾った県立敦賀高校吹奏楽部  
マーチングバンドの演技

会場の両脇には「新・ふくい和歌集」の代表作品を県内書道家が揮毫した書作が展示され、県内34市町村の魅惑と書道メッソ力福井を見事にアピールしていました。また、文化大使らが再登場

し、トークを聞いた感想を述べ、大会へのメッセージを披露しました。続いて山根さんの発声で、「一年あとの国文祭ふくいを是非成功させよう」と、呼びかけ「一本じめ」の手拍子で、エキシビジョンを締めくくりました。  
最後に、県立敦賀高校吹奏楽部48名がマーチング、オリジナル曲「ミニマリイ・スピーキング」を舞台一杯に、演奏・演技を展開し、総合フェスティバルのフィナーレを飾りました。  
会場のエントランスでは開演前から茶席を設け、入口中央には、県内12流派による生花が展示され、また、さざり織りの作品展示や作品づくりを紹介するなど、来場者に、文化・芸術に親しむ秋の雰囲気を提供し、その美感を味わっていました。

財団広報誌「げんでんふれあい福井」が今回で創刊第20号となりました。この節目を記念して、本誌の今後のあり方、また、来年8年目を迎える「財団の進路を拓く」道を探るため、県内の文化、マスコミ界などのリーダーとして活躍されておられる4人の方々と財団理事長を交えた座談会を開きました。

「本誌は今回で創刊20号を迎えました。既刊の「げんでんふれあい福井」をご覧になられた所感をお聞かせ下さい。」

佐野「人の成長から見ると成人を迎えるわけで、企画、編集の面では、総体的には、まとまっているように思います。年3回の発行のようですが、できれば季刊(春・夏・秋・冬)として定期発行したらいかがでしょうか。」

河原「毎号読者用のアンケートを添付されておられますが、その結果や反応はどうですか。第8回目を数えたふるさと大賞写真コンテスト作品の紹介をみて、大変見ごたえがあります。福井の自然、歴史、伝統文化を内外に発信



河原はつ子氏

するうえでも、今後とも続けるとよいと思います。」

理事長「財団創立以来、年3回(3・7・11月)定期発行しています。また平成12年度より頁数を増し、全16頁としました。財団の限られた陣容で、及ば

ふれあいのある文化誌目指す

ばれていると思います。県内外にふるさと情報を発信するためにも、ふくいの文化誌としての機能を果たしてほしいと思います。

山田「広報誌の配布先はようになっていきますか。学校、公民館、社会教育機関など学校の先生や子供達にも見てもらえる素材や編集も必要だと思います。」

ぬながら精一杯、発行をこなしています。企画、編集方針としては、読者の声を活かして、財団の特色づくりの情報を内外に発信する手作りの広報誌として、県民のみならずふるあいのある文化誌になるよう努めてきました。

専務理事「読者のアンケートの回答については、その要約を次号の裏面(財団ふれあい通信)に紹介しています。毎回、約40通前後の回答が寄せられ、特に、歴史、民俗部門が好評で、企画編集に関し激励などもいただいています。」

千葉「県外におられる県人会の方々は郷土の自然や歴史、文化など地域資源を知りたがっています。その意味で、この広報誌は、適切な資料として、喜

出席の方々

- |               |        |
|---------------|--------|
| 福井県文化協議会長     | 山田 石雲氏 |
| 敦賀市文化協会会長     | 千葉 半彦氏 |
| 福井県連合婦人会長     | 河原はつ子氏 |
| 福井新聞社常務取締役    | 佐野 周一氏 |
| 財団ふれあい福井財団理事長 | 前川 則夫  |
| 司会) 同 専務理事    | 山田 敏   |

先曰、県立恐竜博物館を子供らと一緒に訪れましたが、福井県が「恐竜王国」としての愛郷など福井のすばらしい分野を知ることができました。これから福井の特色を紹介することも必要です。」



山田石雲氏

専務理事「本誌は毎回3500部を刊行し、県内の小・中・高校、大学、公民館、図書館、県、市町村の関係機関、文化団体などへ2500部を配達しています。また、財団のイベント開催時を利用して読者にも配布しています。」

県立恐竜博物館については、同館の完成時と「恐竜エキスボふくい2000」に因み特集しました。また、第5号から3回にわけて「福井と恐竜」をテーマに同館館長長東洋一氏に執筆をお願いし特集シリーズを組みました。

今後イベントや文化施設について専門分野も含めた紹介や解説を取り上げていきたいと考えています。」

「広報誌をさらに充実するため、今後の発行へのご意見をお聞かせ下さい。」

佐野「財団の目的からして、県内の文化振興のために問題提起の役割を果たす

ことも必要です。例えば、財団の助成事業で年100団体以上の支援を行っていることでもあり、これらの文化団体の新しい取り組みなどを紹介したり、リーダー的な人の考え方やナマの声を取材して載せるとか、県民みなさんに呼びかける記事も必要ではないでしょうか。」

山田「子供の頃から文化に身近かになれることが大切です。今、核家族化が進んでいますが、敬老の心が失いかけています。祖父母と孫、父母と子の絆を深める身近な文化活動や文化施設への参加体験、互のふれあう心を育てるイベントなども取り上げてほしいと思います。」

千葉「敦賀市立博物館には、郷土のゆかりの深い近世・近代絵画の蒐集に力を入れています。私も同館の評議員でもありますので、今後も引き続き、館蔵美術品の誌上展示と解説を続けてほしいと思います。」

佐野「この広報誌は、何のために、どこを目指しているのか、財団の基本方針と合わせて、常に掲げるものを明示していくことが大切。ふくいの文化の振興とゆとりとふれあいのある地域づくりを目的とした財団の使命と広報誌の役割を示すキヤッチフレーズ、を常に掲げて信頼を高めてほしい。」

理事長「パブリック・リレーションズ(PR)は信頼関係の設定だといわれています。今後とも財団設立の趣旨に則り、地域協働のもとに、ふれあいとゆとりのある地域づくりに少しでもお役に立つ広報誌を目指していきます。」



3月 敦賀市

# 21世紀「財団の進路を拓く」ために

—今後の財団事業の進路について伺います。先ず、文化団体等への財団の助成事業についてご所見を。

**佐野**—財団創立当時から先ず財団事業の特色づくりを具申ししてきました。その最たるものは文化団体等に対する支援だと思えますが、その実態はどうなっていますか。



佐野周一氏

**専務理事**—平成9年度から16年度までに、延780団体、助成金の支給総額は約1億5千万円に及んでいます。その他昨年行われた高校全国総合文化祭福井大会を旨とした県内高校の文化活動の支援に1600万円、また、国民文化祭に備えた県民文化祭の分野別フェスティバル参加育成助成に約1400万円を支援。これらの助成事業費は、財団事業費の三分の一以上に当たります。

**山田**—市町村の文藝活動についても助成をお願していますが、助成金の交付期限が原則3年となっていますので、対象団体としてでなく、その分野事業として適用し、同一団体でも新しい事業については助成対象とする配慮がほしい。交付期限の3年、更に延長して5年にするなどについて、文化団体の育成的事業の優先度を考慮して選択することも必要だと思えます。

**佐野**—文化活動への助成は、事業育成のための支援ですから、ある程度の交付期限を設けることは已むを得ない。飽くまでも育てるための助成で、自律してやっつけなければ本来の姿になるわけ



「財団の進路を拓く」財団会 9/23-25/2011

ですから、文化団体の自律性を尊重することを基本に、この制度を活用していくべきだと思います。

## 財団の文化支援 信頼と誇りで

**千葉**—伝統芸能などの保存事業については、当分の間、その交付期限を適用していないようですが、これらの後継者育成のためにも特別措置を続けるべきだと思えます。



千葉半臣氏

**山田**—最近、市町村合併が進められ、また、自治体財政のきびしい情勢等で文化予算の削減が目立ちます。このような時代だけに、財団への期待の声も大きいと思えますので、地域文化活動への実態、芸術・文化とのふれあい効果などを重視して、助成制度の適用を図っていく配慮が欲しいと思えます。

—財団の文化イベントのあり方についていかがでしょうか。

**佐野**—財団では、コンサートなどのメインイベントは福井と福島のエリアを配慮して計画されているようですが、私の方では、「風の森ホール」をかかえており、最近では、駅前の「響のホール」もできたこともあり、企画にあたっては、福井市を中心とした施設、入場料など採算性なども考慮して、全体の調整機能も必要な時機にきています。

**河原**—福北のエリアといえ、奥越地方への配慮をなされているのか伺います。主要都市中心の計画でなく、勝山や大野市における文化イベントについて

て計画的に取り入れていく配慮がほしいと思えます。

**専務理事**—地域の代表的な文化・芸術イベントについては、財団の協賛事業として支援することを考えていく方法もあると思えます。勝山市におけるアスペン音楽祭などの支援例もありますので、今後、地域の文化団体等の提携事業として取り組むことの必要性を痛感しています。

—財団の特色づくりの一つとして顕彰事業についてどうでしょうか。

**山田**—げんでんふるさと文化賞は本県の有数の文化賞として評価されています。先日亡くなられた竹内成鴻さんや飯澤泉舟さんの葬儀に参列しました。祭壇にその賞を掲げられていました。ご遺族の方は、その栄誉を贈っておられました。

また、昨年から若槻書道会と福井新聞社主催の小・中・高校、大学生の書初め読書大会に、小・中学生に財団賞を出されたことなども財団のイメージを高めていると思えます。

—財団もあと2年で、創立10周年を迎えます。今後の財団の進路についてアドバイスを。

**河原**—げんでんふるさと賞をはじめ財団事業の頭に「げんでん」の冠が付いている。財団の名称とはいえ、固いイメージでなじみにくいと思えます。広く親しまれるために「愛称」を付けたらどうでしょうか。

**佐野**—この財団は、県内では最大規模の文化支援法人といえます。21世紀は企業も文化性をもつことが企業を評価するキーワードとなっています。地域社会との「ふれあい」をつくる中で「げんでん」にこだわりがなくなっていくような誇れる成果をあげることによって財団の道が拓けていくのではないのでしょうか。



前川理事長

**理事長**—貴重なご意見ありがとうございます。この財団は、日本原電創立40周年の記念事業の一環として設立され、企業のメセナ活動の一つでもあります。「ふれあい」は人と人と心の交流を表わし、財団のコンセプトとして、地域に根ざした信頼と親しまれる財団となるよう今後も頑張りたいと思えます。

ふるさと福井  
人物シリーズ

# 松木庄左衛門

大老をも動かした若き義民

(下)

文／永江秀雄

## 強訴の罪と磔の刑

慶安元年（一六四八）の暮のころ、「もはや普通の方法では役人は見向きもしまし」と、意を決した松木庄左衛門をはじめ代表の庄屋たちは強訴の罪をかぶることを覚悟で、また嘆願書を差し出しました。農民の窮状を余すことなく述べ、「是非お聞き届けを」と、強硬にお願いやみませんでした。しかも、この嘆願さえ全く受けつけられず、役人に追い払われて、すこすこと村に引き返さなければならぬ代表たちでした。

今はこれまでも、最後の手段に出る決意をも固める代表格の庄屋の家々に、小浜藩の捕方が殺到しました。嘆願の代表者たちは、強訴の罪により逮捕され投獄されてしまったのです。新道村の庄屋松木庄左衛門のもとにも、もちろん捕手が駆けつけました。

ちょうどそのとき、庄左衛門は家にいて、母の前で謡の「田村」の曲をうたって聞かせているところであった、といわれています。若くして父を失った庄左衛門は、母をとてども大事にしていました。母もまた、我が子の良い理解者でした。直ちに彼を召し捕らうとする役人に向かって、庄左衛門は「今しばらく。母を慰めるためにこの一曲、うたい終わるまでお待ちください」と、願いました。

まるで芝居の名場面を見るような情景だったようですが、しばしの猶予を与えた捕方たちが見守ることも知らぬ間に、庄左衛門は、朝々と罪を積るのでした。

このような日のあることはすでに覚悟しており、また、これが母への最後の孝養となることを予測していたのかもしれない。その後、数年間を牢獄に過ごされた庄左衛門は、母や弟の待ちわびるわが家へ再び帰ることはなかったのです。

農民たちの血のじむような訴えに対して、藩の役人たちは、おどしたり、なだめたり、たらしめたり（まるめこんだり）して、年貢引き下げの要求やその行為を止めさせようとした。固い決意の代表者たちも、いつしか一人去り、二人去り、志をひるがえして牢獄から釈放されていきました。一説に、水平に入れて責められたりしたため、病気になるまで、獄死した庄屋があつたともいわれています。とうとう最後には、松木庄左衛門ただ一人が残りました。

庄左衛門は、あくまで楽理を尽くし、城ができ上がるまでといわれた年貢の引き下げを願いつけてやまず、藩主の威光や役人の圧迫に断じて屈服しませんでした。若狭の庄屋が一致団結して訴えを起こしてから、実に十三年にわたる歳月が費やされたといわれます。

すでに五年にもおよぶ牢獄生活のため、瘦せおとろえた庄左衛門を、しかも、



「殉義成仁」徳富蘇峰書

松木長操の事蹟にふれ、その義學を讃えた徳富蘇峰の書「殉義成仁」（義に殉じて仁を成す）が松木神社に所蔵されています。

どうしても志を変えぬこの義人を、ついに小浜藩の役人は無惨にも磔の刑にしてしまいました。慶安五年（一六五二）、九月改元して承応元年（五月十六日のこと）、庄左衛門は二十八歳であった、と伝えられています。

しかし、一命を捨てて恐れず、若狭全農民のために年貢軽減を求め続けた義民松木庄左衛門の悲願は、藩主酒井忠勝によつて、ついに聞き届けられました。大豆年貢は元の通り、一俵四斗入りに改められたのです。

## 今も滅びぬ義民の魂

その当時の詳しい状況を知るための記録は、とくに農民の側にはほとんど何も残っておりません。ただ忘れてはならぬこと

として、ほとんどが口伝に伝えられてきたものです。ところが、幸いなことに、小浜藩の家臣の御尾信之が、藩主五代の言行を尊敬の念をこめて書いた「玉露集」の中に、次のような記事のあることがわかりました。その要旨をまとめてみましょう。

若狭諸郡の大豆年貢の納め方が、ただ今のようにでは、いつまでも百姓の難儀である。百姓の難儀は、得來は御領主の御難儀であるので、今後は改めていただきたいと、若狭全部の庄屋が一致して願い出た。酒井忠勝公は、このことを聞かれてはなはだ立腹され、この願いの願取を調査させられた。上中新道村の庄屋で松木と言う者が願取であることがわかったので、この者を日笠河原で磔罪にせよ、と命令された。そのとき、かの庄屋は



「松木長操氏之伝記」より

庄左衛門は泰然として、母上、今こそ我が一命をもって万民の命に代える秋。お誦讀せんこと勿論なれど、録曲の終わるまでの猶予を与えられたし。これぞ今生の誦いおさめに候ぞと、うたい出す田村の曲。やがて録曲もうたいおわりければ、さらば御召し捕り下されよというに、それと烈しき命の下に、庄左衛門を縛め、小浜の獄舎につなぎたり。

松木の上から、「ここに集まった見物の百姓衆よ、よく聞くがよい。我はただ今、百姓たちのために涙にかかるぞ。大豆年貢のことは、願いの通りになるのだ。このことを忘れず、わが命日には回向するがよい」と、高声に呼びかけて、死んでいった。彼の言った通り、涙にはされたが、大豆の納め方は、申し出た所も、申し出に加わらなかつた所も、すべて庄左衛門の願いの通りに、年貢の引き下げが行われた。

「玉露遺」には、右の文章に続いて、  
そのころ、「あの庄屋は無理な御仕置にあった」といって一般の人びとは批判したが、忠勝公も御領分を治める御政務の中で、「三度、非道なことをしたが、松木の処刑もその一つであつたと仰せられた、といふことである。」

と記録されています。また、「その願いの筋も道理になつていたので、今後の押さえのために罪に落としたが、申し出の通りに年貢引き下げの御免許があつたのだ」とも書かれています。天下の大老をも動かしたものは、庄左衛門のこの道理と誠意と勇氣であつたのです。ところで、この事件について研究調査を進めていくうちに、酒井忠勝もまた、決して私利私欲をむさぼる暴君ではなく、究極において道理を重んじ、また、人間味をも秘めた、その時代としての大きな為政者であつたことがわかり、大いに考えさせられるものがあります。

なお、「玉露遺」にも「彼の命日には今も大豆を手向けて、近辺の百姓ども、松木の霊を祭る」と付記されています。秋になって大豆がとれると、一番に神棚に

供えて、松木さんに感謝をささげる風習が、昭和の時代になつても、広く若狭各地の家々に見られました。ここにいる「松木さん」とは、その当時から今に至るまで、若狭の農民（百姓）たちが、身命をなげうって彼らの苦難を救つてくれた義民松木庄左衛門を、深い感謝と親しみを込めてよぶ敬称です。

謀罪になつた「松木さん」は、刑場に近い日笠村の正明寺に引き取られ、丁寧に葬られました。気骨ある住職の計らいによる、ともいわれています。今この寺の山門をくぐると、すぐ左手に「松木長操居士」と刻まれた石塔（五輪塔）があります。「長操」とは、義民庄左衛門を称える没後の贈名であり、法名です。寛延二年（一七四九）日笠村中による建立とあり、死後百年近く後のものですが、これが現在確認できる義民庄左衛門の最古の墓です。

また、処刑された庄左衛門の家は廃絶にはならず、その弟によつて継承され、今も昔のまま上中町新道に続いています。その松木家の背後にも安永三年（一七七四）に建てられた「釈長操」と刻銘のある墓があります。さらに、上中町井ノ口の常源寺には宝暦十一年（一七六一）に建立された石碑があり、同じく上中町三宅の久永寺には文久二年（一八六二）造立の石塔があります。いずれも「長操菩提」のためといふことが、裏面や側面に小さく彫られています。領主をはばかる義民とは、このように祀り続けられてきたのです。

近代に入ると、自由民権運動の影響も受けて、明治二十四年（一八九一）には、

## 松木長操居士を祀る 墓所や碑



上中町井ノ口 常源寺  
自然石の碑で、表面には「南無阿彌陀仏」の名号が、裏面には「長操菩提」の文字が刻まれています。



上中町三宅 久永寺  
金剛般若の石塔。  
側面に「松木長操居士菩提」とある。



上中町日笠 正明寺  
現在確認できる最古のお墓。



義民顕彰の記念碑が建てられている  
松木長操史跡公園

長操が御刑に処せられたのは、丹後街道から京都に通じる若狭街道の分岐点のあたりと思われ、昭和30年に上中町指定の史跡となりました。また、日笠の地に明治24年（1891）、義民を顕彰する記念碑が建てられました。平成4年の長操居士340回忌においては、北川のはとりに、記念碑及び発起人碑を移して史跡公園となっています。

義民 松木庄左衛門（長操） 関係年譜

大永 2年（1522）	武田元光 後瀬山に幕城
慶長 5年（1600）	9月関ヶ原の戦 京極高次 若狭領主となる
慶長 6年（1601）	京極高次 小浜城築造開始
寛永 2年（1625）	松木庄左衛門 誕生（松木家系図）
寛永 11年（1634）	京極家出陣へ転封 酒井忠勝若狭の領主となり8月19日小浜入部
寛永 13年（1636）	10月 小浜城天守閣完成
寛永 15年（1638）	11月 酒井忠勝 大老となる
寛永 17年（1640）	若狭金村庄屋集會 大豆賣納帳減帳開始（『伝記』）
寛永 19年（1642）	小浜町人おり米騒動
慶安 5年（1652）	5月16日 松木庄左衛門 処刑される 9月18日改元 承応元年
享保 5年（1720）	磯尾信之「玉露義」著述
寛延 2年（1749）	日笠村正明寺に松木長操居士の墓建立
宝暦 11年（1761）	井ノ口村常楽寺に南無阿彌陀仏の長操菩提碑建立
安永 3年（1774）	新道村松木家に釈長操不退位の墓建立
文化 末年（1818）	このころ天徳寺村の墓面に松木長操「承応元年五月十六日」御刑の記事発見される
文久 2年（1862）	三宅村久永寺に金剛般若松木長操居士菩提の石塔建立
明治 6年（1873）	小浜城復城
明治 17年（1894）	小室信介著「東洋義人百家伝」（『松木庄左衛門長操伝』収載）刊行
明治 24年（1891）	三宅村日笠に義士松木長操子記念碑建立
明治 44年（1911）	逸見勲兵衛「松木長操氏之伝記」編述
昭和 2年（1927）	小野武夫編「徳川時代百姓一揆叢談」（冒頭に「松木長操伝」採録）出版
昭和 5年（1930）	この頃 河村仁右衛門「義人庄左衛門と当時の若狭歴史」執筆遺稿（『若狭新聞』）
昭和 8年（1933）	熊川村（現、上中町）熊川に 松木神社建立
昭和 10年（1935）	松木神社境内に 義民館建設
昭和 40年（1965）	作家水上勉氏松木庄左衛門を主題とする歴史小説「城」を発表（『文藝春秋』）
昭和 45年（1970）	松木神社奉賛会 河村氏著「若狭の義民—義人庄左衛門と当時の若狭歴史」出版
昭和 48年（1973）	10月 松木神社石造大鳥居奉納（中川平太夫氏）
昭和 56年（1981）	松木神社奉賛会「若狭の義民」改訂版及び別冊「義民松木長操伝」発行
昭和 58年（1983）	10月 松木庄左衛門祈願の銅像建立
平成 4年（1992）	10月16日 上中町日笠 義民松木長操史跡整備 義士松木長操子記念碑移転
平成 14年（2002）	10月13日 350年祭 上中町日笠正明寺にて法要 義民館 改修

ある歴史学者は、「松木庄左衛門は、時を得て風雲に乗ずれば一國一城の主ともなった器量人であったであろう」と断言しておられます。また、中国の古典「孟子」に、「富貴も淫スルコト能ハス、貧賤も移す。」

更に、昭和十年には、地元出身者たちの篤志により、この境内に神社の社務所にも当たる義民館が新築されました。松木神社をはじめ、正明寺や生家松木家にあるお墓、また、日笠に建つ記念碑の前には、今も全国から詣でる人が絶えません。道理を貫き、人間みんなの幸福を求めた義民松木庄左衛門の魂は、いつまでも滅びることなく、生き続けています。

日笠の村の中に義民を顕彰する立派な記念碑が建設されました。昭和八年（一九三三）には熱烈な篤志家の尽力と、多くの豪族の協力によって、新道の村に隣接する熊川に、松木神社が創建されました。四季を通じて美しく見晴らしのよいこの境内は、不思議にも、江戸時代に小浜藩の年貢米を収納した米蔵の跡地が、たまたま選ばれたのであるということである。



松木神社参道—上中町熊川



松木神社本殿



義民館—松木神社境内

正面入口の「義民館」の扁額は本県出身の総理大臣岡田啓介の揮毫。

スコト能ワズ、威武も屈スルコト能ワズ、此ヲコレ、大丈夫謂ふことの名言がありますが、私は松木庄左衛門長操こそ、正にこの言

葉どおりの大丈夫であった、と信じています。（おわり）



川 (三国町) 哥 流 女 俳 人

江戸時代中期の異色の女流俳人・哥川(かせん)の代表句といわれる「奥そこのしれぬさむさや海の音」を自然石に刻んだ句碑が三国町山王2丁目にある日蓮宗・妙海寺の境内に建てられています。句碑は、山門をくぐり、石段を経た本堂手前の右側空地に、「冬の日本海の荒波の音。奥底の知れない妻さが、人生の果てしなさや厳しさ、孤独感などまで深められるように」・・・ひっそりと眠っていました。また、哥川の菩提寺といわれる同町神明2丁目にある真宗大谷派・永正寺の境内に、「福妻やあける妻戸に見うしなひ」の名句を刻した句碑が哥川の墓と並んで建てられています。この句にも、「つか

奥そこのしれぬさむさや海の音



川 哥川 肖像画  
福井県大百科事典  
(福井新聞社)より

のまに消え去るもの、見失ってしまったものへの喪失感が迫ってきます。」この碑は、同寺の墓地の中から哥川(法名・妙春)の墓が見つかったことに因んで、昭和59年(1984)5月、鯖江市西番町の俳人・吉川静氏が寄進して建立されました。同碑の

哥川の菩提寺といわれる永正寺(真宗大谷派・三国町神明2丁目)に建立された句碑(右)と墓所(左)



福妻やあける妻戸に見うしなひ

向って左側には哥川の墓が並び、毎年7月26日、哥川忌を営み、長い間ひっそりと眠っていた女流俳人の生涯に光を当てようと、有志の集いが続けられています。



昭和27年11月、妙海寺境内に三国町本田番古氏らによって建てられた哥川の句碑



日蓮宗妙海寺の山門(三国町山王2丁目)

哥川の生没年は明らかではありませんが、哥川を有名にしたのは、寛政10年(1798)に出版された「続近世婦人伝」という書物です。彼女の前身は三国の出村(丸岡藩)の荒町屋の遊女で泊瀬川と名乗っていました。美人で性格がよく、絵画、茶道などの諸芸を身につけ、特に俳諧(俳句)に長じ、後に俳号を哥川と称しました。遊女時代に一人で江戸に招かれ、俳諧や遊芸など風雅な人柄を認められて帰国するとき、馬に5頭積みの土産や饅頭の品



を贈られたといわれています。三国湊に降り着いた哥川は、それらの品物を自分は何一つ取ろうとはせず、すべて店の主人に贈りました。泊瀬川は物や金には縛られない、真の自由を求める女性だったといわれています。

寛保元年(1741)哥川は31歳の頃、自由の身となり、その後8年間は、生活のため豊田屋という遊女屋を経営。哥川が通称、豊田屋吟とよばれるのはこのためです。そして寛延2年(1749)38歳になったとき、出村の町はずれに草庵を結んで、尼となり、仏に仕え、俳句を作って余生を過ごしました。安永5年(1776)



月窓寺(三国町神明1丁目)にある哥川ゆかりの墓

7月26日、61歳で病死したといわれています。

# 財団国際 英国中学生を招く 交流事業

敦賀

当財団では日本原電と共催して、国際交流事業の一環として、7月30日から8月2日まで、敦賀市内に英国の中学生らを招き、日・英両国の友好親善の絆を深めました。

訪日団一行は、ホームステイを楽しみながら県内観光や日・英中学生の交流イベントに参加するなど国際交流の輪と滞在4日間の思い出をきざみました。

今回、日本へ訪れたのは、日本原電の技術提携先B.N.F.L(英国核燃料公社)の原子力施設が立地するイギリス西北部、セラフィールド地方に在住する中学生男女10人と付き添いの教員ら3人の計13人。昨年の夏には、敦賀市と東海村(茨城県)の中学生らが英国の同地方を訪問しており、今回は両国の相互派遣事業として企画され、英国の中学生らを受入れるのは初めての国際交流事業となりました。

7月30日、朝、関西空港に着いた一行は、遅過ぎ列車で敦賀入り。日本原電の

津内寮会議室で歓迎セレモニーが行われ、前川財団理事長をはじめ、敦賀市下野教育審議監から歓迎の挨拶が述べられた後、英中学生の自己紹介とホストファミリーとの対面が行われました。

引き続き行われた歓迎パーティでは、昨年夏に英国を訪問した中学生とその家族らも参加していることもあり、再会を喜び合う風景も目立ち、はじめは緊張した空気も食事をはさむうちに打ちとけ、

## ホームステイで深めた国際交流の輪

歓迎ムードに包まれていました。終了後、一行は敦賀市役所へ、河瀬一治敦賀市長を表敬訪問。英国のコープランド市長から託されたメッセージを伝達し、代表が「日本の文化を学んで楽しいひと時を過ごしたい」とあいさつ。同市長からは、「長旅で大変お疲れのことと思います。明日からは、敦賀の海など日本の美しい自然を満喫してほしい。」と一行の訪問を歓迎しました。その後、ホストファミリーの出迎えで、それぞれの宅へ向い、訪日初めての夜を過ごしました。



永平寺傘松園で輸入り格天井を見上げる一行=7/31 永平寺

7月31日、早朝から、古窯のふるさと越前陶芸村宮崎村小曾原福井県陶芸館を見学。陶芸教室で約一時間ばかり手ひねりやろくろ台を使って工夫をこらした作品づくりに挑戦しました。午後は、曹洞宗大本山・永平寺に参拝。山門、仏殿、法堂、僧堂、庫院など七堂伽藍を見学、

案内の巻水から、道元禅師以来七百数十年にわたる禅寺・永平寺の歴史と行住坐



陶芸教室で手ひねりの作品づくりに熱中=7/31 県陶芸館陶芸教室



恐竜模型をバックに記念写真=7/31 県立恐竜博物館

隊の中の実践道場であることの説明をうけ、禅寺の奥義を学んでいました。また、傘松園の大広間では、格天井にはめられた日本の著名画家が描いた230枚の日本画を見上げ、独特の風情に驚いていました。

勝山市にある県立恐竜博物館では、折しも、「中国大陸の6億年」恐竜の里、浙

8/3(火)	8/2(月)	8/1(日)	7/31(土)	7/30(金)	英国中学生受入れ日程
7:00	18:00	10:00	11:00	8:00	12:30
7:00	11:00	11:00	11:00	11:00	13:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	14:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	15:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	16:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	17:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	18:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	19:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	20:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	21:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	22:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	23:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	24:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	25:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	26:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	27:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	28:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	29:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	30:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	31:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	32:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	33:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	34:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	35:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	36:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	37:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	38:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	39:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	40:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	41:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	42:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	43:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	44:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	45:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	46:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	47:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	48:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	49:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	50:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	51:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	52:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	53:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	54:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	55:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	56:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	57:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	58:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	59:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	60:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	61:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	62:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	63:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	64:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	65:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	66:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	67:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	68:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	69:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	70:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	71:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	72:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	73:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	74:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	75:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	76:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	77:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	78:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	79:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	80:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	81:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	82:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	83:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	84:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	85:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	86:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	87:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	88:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	89:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	90:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	91:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	92:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	93:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	94:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	95:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	96:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	97:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	98:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	99:30
	11:00	11:00	11:00	11:00	100:30



日英生徒交流会で敦賀市気比中を訪問。  
藤本正勝同校校長より歓迎の言葉=8/2

8月1日、午前中、日本原電PA館を見学した後、松原海岸で地引き網漁に挑

日・英

## 交流会で日本文化を紹介・体験

江省の化石たち」の特別展が開催中で、恐竜の卵にふれるなど門外不出の貴重な化石群を見学し、恐竜のロマンと地球と



地引き網漁を体験する英中学生と  
ホストファミリー=8/1 敦賀市  
松原海岸



気比中生徒に教わり書道に挑戦

教わりながら真剣に書き上げていました。また、琴演奏では、神秘的な面持ちで、試し弾き、曲通りの音色が響くと、互に手を取り合って喜んで、茶道では、畳の間に正座して、茶湯の礼法を教わっていました。



琴の演奏を体験学習



和室で茶道も体験する英中学生ら

今回の感想が述べられ、「ホームステイは初めは不安でしたが、生活習慣や言葉の違いを越えて、思いや気持ちは、互に通じ合えた」「今回は子供連だけだけでなく、親として貴重な体験でした」など共に過ごした4日間を振り返り、惜別の言葉でしめくくっていました。

部活動の見学では、体育館での剣道の模範演技やバスケットの練習風景、屋外ではテニスや陸上競技など、音楽室では、



さよならパーティ、英中学生みんな  
で合唱=8/2 サンピア敦賀

食事が終わる頃から、両国中学生によるプレゼンテーションに移りました。イギリスの一生徒は、永平寺参拝時に買った網代笠をかぶって、英語で詩文を朗読。愛用のクラリネットやトランペットでイギリスの歌曲を独奏したり、最後は、英国中学生全員が合唱して、会場を盛り上げ、大きな拍手が送られました。その後、ホストファミリーを務めた10グループから、



クラリネットの独奏を披露

## フェアパーティー

## 言葉を越え感動の別れ

ウェルディナーが、同日夕刻、サンピア敦賀で、両国の中学生、ホストファミリー、関係者約70名が集まり開かれました。会場にはファミリーごとに集まり、ホール中央部に盛られた料理や飲物などをとりながら談笑。時がたつほどにファミリーとの別れを惜しむパーティとなりました。

## 若狭能倉座の神事能

三方町

若狭地方で古い伝統を受け継ぐ若狭能倉座による神事能「風祈能楽」が、今年も8月19・20日、宇波西神社(三方町気山)と弥美神社(美浜町富代)の能舞台で奉納されました。番組の最初に、福井県無形民俗文化財に指定されている「一人翁」が演ぜられたほか「岩船」「壺々」など4曲が上演されました。

## 神事能の起源・縁起

若狭地方には、約650年前、芸能集団(座)として、氣山座、倉座、吉祥座、尾



面(白色討)を前に敬肅清澄に認め出し、地謡と掛合に臨んで舞いがはじまる

## 千秋萬歳「翁の舞」厳粛に奉納

せんしゅうばんざい

翁 両手をひろげ萬歳楽を認め最後は  
連打して歌舞を納めます



胡座と呼ばれる4座の猿楽があったといわれています。いつのころか倉座が筆頭の地位を占め、17世紀中頃には倉座のみとなりました。江戸時代に入り、小浜藩主・酒井氏の庇護のもとに発展を遂げ、神事能は、小浜藩の支配地の各神社に奉納されるようになり、その数は年間74座と記録されています。現在は、福井地方の一部の神社(滋賀県朽木村・若宮神社を含む)10社の祭礼などに奉納されています。なお、三方町の宇波西神社と弥美町の弥美神社では、「風祈能」と呼ばれる風鎮めの五段豊稈を祈願する神事能だけの祭礼が行われます。神事能を伝承する組織として倉座があ



神事能を奉納する弥美神社の能舞台

り、正式名称を「若州藩相統若狭能倉座」、略称を若狭能倉座と呼んでいます。現在、座員16名(代表福谷善義氏)で構成される任意団体です。

倉座神事能は流儀の「式三番」といわ

## 「風祈能」五番立て上演

れる「翁の舞」ですが、これを倉座では大夫一人だけで登場するいわゆる「一人翁」で、祝詞の歌舞が行われます。舞台では、面箱持ちと地謡を兼務した後見役

が助演します。

面箱持ちによって舞台上に運ばれた白色刷(老翁)の面を前に、翁が「とうとうたらりら。・・・」と鮮明清澄に謡い出し、面を着け、地謡と掛合に臨んで舞が始められます。「翁の舞」は、両手袖を広げて「目付柱」の方から「ワキ柱」へ、両手下ろし、左右左と足拍手踏み、左回りで舞台中央、正面へ行き所作して、左右左と足拍手踏み、舞い続けます。終幕に入り、両手を広げ「千秋萬歳の。喜びの舞なれば。」と謡いながら、顔の前で両袖に合わせた連打で納めます。

神社祭礼の一連の行事のなかで、神事能の位置は各神社の神事によって異なっています。今回取材した弥美神社では「風祈能」として同神社の氏子中が主催し、倉座は後援のかたちで執行されています。番組は、「一人翁」に続いて、「岩船」「壺々」「高砂」の順に能楽が奉納され、最後に五段豊稈を祈願する祝言を謡って神事能を納めました。



仕舞「高砂」を堂々と舞う少年の演技



能楽「杜若」(かきつばた)を演ずる場面



# フクイデザインマインド コンペティション2004

公開  
審査会

## 金賞 武生東高校 オレンジチーム

高校生が社会や普段の暮らしの中から課題を見つけて出し、そのデザインのプロセスやその解決方法を提案、発表する「フクイデザイン マインド コンペティション 2004」(県・財団デザインセンター主催、当財団協賛)の公開審査会が、9月26日、福井市の響のホールで開催されました。

県内高校29チームから第1次予選を通じた9チームが参加。寸劇や対話を取り入れたり、自作のコンピュータグラフィックスやパネル等を使い、7分間の制限時間で、それぞれ趣向をこらしたプレゼンテーションが展開されました。

審査は、課題の発見と分析力、解決提案のまとめ方などを基準に、武蔵野美大の長澤忠徳教授ら3人が当り、厳選の結果、次のとおり受賞チームが発表され、舞台上で表彰されました。財団では、受賞者全員に、副賞のトロフィーを贈り、その栄誉をたたえました。



金賞の喜びを語る武生東高校  
フレームオレンジチーム

▽金賞 武生東高校(フレームオレンジチーム) テーマ「守れ!日本の農業」

▽銀賞 啓新高校(NO.1SARAI) NA.1 和気愛夢チーム

▽銅賞 武生工業高校(SYSTEMSチーム)

▽審査員特別賞 啓新高校(5・21チーム)



「守れ!日本の農業!」をテーマにコンピュータグラフィックスなどを使い、発表する武生東高校チーム

金賞に輝いたフレーム・オレンジチーム(武生東高校)は「守れ!日本の農業!」をテーマに、水稲の転作・休耕問題、日本の食糧自給率(現在40%)の低下や地域農業の現状を分析。ふるさとの農業を再生するための方向として4つの作戦を提唱しました。▽若者に農業を体験させるなどの呼び込み作戦、▽農業をベンチャービジネスとする研究作戦、▽農業のイメージアップ作戦、▽農産物のバイオ研究所の設立作戦などを提案し、日本農業を世界に結びつけることで、農業を立ち直らせようと呼びかけました。

# 茂山千作師(人間国宝)を招き「狂言を楽しむ会」

11/4



「附子」を演ずる冠者たち

## 敦賀の中学生 体験学習で感銘

財団では、人間国宝の茂山千作師一門を招き、今年で第7回目を迎えた「狂言を楽しむ会」(日本原産協賛)を11月4日、昼と夜の2部に分け、敦賀市プラザ萬象の能楽堂で開催しました。

昼の部では、敦賀市の中学生(角田、気比、東浦、西浦、気比村區中の5校)460名が古典芸能の体験学習として狂言を鑑賞しました。

公演に先立ち、狂言師松本薫さんから能舞台の構造や狂言の小道具の使い方、上演曲目の解説が行われた後、「柿山伏」と小学校教科書にも登場する有名な「附子」の2曲が演ぜられました。

参加した中学生は、生の狂言をはじめでみる生徒が多く、「初めは難しかったが、つい笑いたくなる喜劇に感銘しました」と、狂言の魅力を味わっていました。

夜の部では、会場に約400人のファンが集り、狂言師茂山千三郎さんから能舞台の構造や狂言の歴史などの解説が行われ、「秋大名」「榊桐り」「蟹山伏」の3曲が演ぜられました。

「秋大名」では、人間国宝の茂山千作さんが大名で登場。田舎大名が名産の萩の花の遊山見学に、挨拶がわりの歌謡をめぐり、太郎冠者から教えられた歌謡を覚えられず、庭の亭主を善きこんだトンチンカンな振舞いやコメディカルなセリフの演出に、会場からは、大きな笑いが沸きおこり、人間国宝茂山千作師の円熟した演技に大きな拍手が送られました。

「榊桐り」では、主人の留守中の盗み酒を、残された冠者たちが、榊などに、縛られながらも卓抜な方法で酒盛りする珍妙な演出を披露。



「秋大名」で円熟した演技を披露する茂山千作さん(右)

「蟹山伏」では、山伏と弟子の強力が故郷へ帰る途中、沢で「蟹の精」と闘い、山伏の折柄もむなく、人間の本性を顔に出したユーモラスな演技に、会場から笑いと拍手で包まれていました。

## 国際丹南アートフェス・開幕

8/1~8

### 斬新アート100点を紹介

武生

第12回国際丹南アートフェス「イバル2004」(同実行委員会主催、当財団協賛)が8月1日から8日まで、武生市民ホールと同市の日野川河川公園で開催されました。両会場には、紙、鉄、土などの素材の良さを追求した現代美術作品、約百点が展示され、県内外の国内作家48人と韓国、スウェーデン、イスラエルの海外作家15人の作品が参加しました。特に、今回は「鉄」に重点を置き、特別企画「鉄」を用いたも人の作家が招待されたほか、野外の展示に力を入れていました。



中島清さんの作品「04年秋」

## 風の歌・森の響きコンサート

9/12

尺八、ピアノ、和太鼓のジャンルを超えた組み合わせ「風の歌・森の響きコンサート」が福井新聞社と当財団共催(協賛・日本原電)で、9月12日夜、同社・風の森ホールで開催しました。

尺八演奏家としてジャンルを超えた音楽活動を続けている土井啓輔さん、映画やテレビ番組などのテーマ曲を発表している谷川賢作さん、新進和太鼓奏者の上田秀一郎さんの異例のトリオが出演。

土井さんが作曲した「大道一筋」で幕開け、風が吹く音に似た幽玄な尺八の音色が続き、上田さんが激しく打ちならす和太鼓の力強い響きが絡み合い会場を湧かせました。谷川さん作曲「Petit Okinawa」では、



独創的調べを奏でた「風の歌・森の響きコンサート」

## 尺八・ピアノ・和太鼓の合奏

福井

沖縄民謡の音階をベースにジャズ風の楽曲に乗って邦楽の神にとらわれない絶妙の調和の演奏。また、「黒いオルフェ」や「りんご追分」など名曲も披露。次々と繰り出された洋楽と邦楽器から奏でる独創的調べに、観客から感動の大きな拍手が送られました。

## レーゲンスブルグ合唱団招く

7/24



レーゲンスブルグ大聖堂少年合唱団と美方高、中央中合唱部の共演・大合唱

千年に及ぶ歴史と伝統をもつ世界屈指の少年合唱団、ドイツのレーゲンスブルグ大聖堂少年合唱団を招き、7月24日、福井市の県立音楽堂で、県文化振興事業団主催、当財団協賛のコンサートを開きました。

幕開けは、全日本合唱コンクールなどで例年好成绩をあげている県立美方高等学校合唱部と鯖江市立中央中学校合唱部の共演でした。同少年合唱団の監督・指揮者ローラント・ビュヒナーさんが、今春、完成したバイフォオルガンの伴奏により、松村勇さんの指揮で、ヴェルナー作曲の「野ばら」や日本の歌「ふるさと」を総勢百名による大合唱を披露しました。

第2部では、少年合唱団は、古い教会音楽の聖歌をはじめ、近代・現代までの歌曲や有名なドイツ民謡など多岐にわたる合唱曲を次々と歌い上げ、清純で可憐な響きの中に、柔らかなコーラスに、約千人の観客は、自然と引きこまれていました。

## フクイバレイ団 創立30周年 記念公演

8/8

### 「白鳥の湖」全幕を上演

福井



名作「白鳥の湖」を演ずるフクイバレイ団

フクイバレエ団の創立30周年と同団のノムラ陽子代表の県文化賞を記念した公演「白鳥の湖」(当財団協賛)が8月8日、福井市文化会館で上演されました。

地方公演では珍しいという全幕公演で、クラシックバレエの代表的古典を華麗に舞う団員ら約110人の踊り手に、会場に詰めかけた約千数百人の観客から大きな拍手が送られていました。

「白鳥の湖」はロシアの作曲家チャイコフスキーの不朽の名作。ジークフリート王子をたたえるワルツや3人が息を合わせて踊るバ・ド・トロワなどで華やかに幕開け。悪魔の妨害にもめげず恋に殉じる王子とオデット王女の悲しい物語が繰り広げられました。結末は、2人の姿に奮起した白鳥たちが、自由を獲得するため、悪魔に一丸となって立ち向かうクライマックスシーンに、観客はため息をつきながら見入っていました。

## 海・山・音楽福井ロックフェスティバル 04

熱いステージ展開



観客を盛り上げたロックフェスティバル

県内外で活躍する福井発のロックバンドが集結し「海・山・音楽 福井ロックフェスティバル04」(福井新聞社、福井工フエム放送主催、当財団協賛)が10月11日、福井市の響のホールで開催されました。今回参加したのは「COOL JOKE」「SOULS PIMP SESSIONS」「ザ・ルースドッグス」「自由人」「ヒナタカコ」「Sour-o-agee」「ナナ・イロ」の7組。会場の一階にはロック・ファン約130人が立ち席で控え、2・3階の客席を含め約280人の観客を前に熱いステージを繰り広げました。第1陣は「COOL JOKE」で幕開け。ボーカル、ギター、ドラムの4人組が、スモークとカクテル光線に彩られたステージに割れんばかりのロックンロールの演奏とトークと踊りで会場を沸かせました。次いで「Sour-o-agee」が出演、さらに、本県出身の「社長」をリーダーとする「SOULS」、音大に通うヒナタカコさん、福井在住の女性「ナナ・イロ」チームが次々と舞台上に上り、感受性豊かな歌声や独自のバワフルなバンド・サウンドを響かせ、観客一体となった熱狂のステージに大嵐が送られました。

福井

## “春にして君を離れ” 初日公演

大和田伸也 演出・出演  
主演 多岐川裕美さん

財団では、「げんでんふれあいスペシャル2004」と銘打ち、敦賀市出身の俳優、大和田伸也さんが演出・出演する舞台「春にして君を離れ」(日本原電協賛)を11月8日夜、敦賀市民文化センターで開催しました。

この舞台は、全国巡回の初公演で、同市出身のオペラ歌手の吉田浩之さん、同じくジャズダンサー三代真史さんが振付けに参加するなど福井県のあるさと大使を務める大和田さんらの福井の文化を発信するメッセージが込められていることもあり、会場に詰めかけた1200人の観客は、初日公演に

公演劇

## げんでんふれあいスペシャル 2004

11/6

敦賀



終幕、花束を贈られ、挨拶する東、多岐川、大和田さん(左から)

大きな期待が寄せられていました。演劇は、推理小説家アガサ・クリステイの名作を初舞台化したもの。「弁護士夫婦と暮らし、3人の子育ても終えた幸せな主婦が、砂漠にあるレストハウスの数日、定止めされ、自分自身の心の中を

のぞきこむという体験を強いられます。過去の真実が姿を現し、不安が忍び寄るといふ、心の中の世界が展開されていく、「ストーリー」。

主役の主婦に多岐川裕美さん、夫役に大和田さん、女学院時代の友人に東てる美さん(他に別役)。

息子役に大和田さんの長男悠太さんらの豪華な配役。吉田さんの歌で幕開けし、舞台の大部分が砂漠の真直中の背景で、家族をめぐる回想、万華鏡をのそくような心のミステリー劇が繰り広げられました。

フィナーレには、舞台上に出演者全員と歌唱の吉田さん、振付けの三代さんも加わり、福井の文化発信の好スタートに会場から激しい喝采が送られました。

## 第8回 福祉演芸会を巡回開催

ゼンジー 億(マジ) 林田麻友子(撃)さん招く



客席で観手しながら歌う林田麻友子さん

財団では人にやさしいふれあい活動の一環として10月19日から3日間、県内福祉施設(別表のとおり)を巡回訪問して、第8回福祉演芸会を開催しました。

今回は「マジックと歌謡ショー」を企画。マジックのゼンジー一億さんと歌手の林田麻友子さん(日本コロンビア)を招きました。

10/21 (木)	10/20 (水)	10/19 (火)
14:10 福井県若狭あどりの村	14:11 ケアホーム・さいせい 坂井ケアセンター	14:10 ひまわり荘
敦賀市	坂井市	敦賀市

各会場とも開幕30分前から車椅子の入所者や最寄りの施設のお年寄りらが詰めかけ、3日間で延約千人が参加、楽しい一刻を過ごしました。前段は、一億さんが、コメディカルな話術で、うそ結びの赤いハンカチをはじめ観客を前にしたリング・マジックや色違いの顔の画像の瞬間異動手品などを披露して、爆笑と喝采を浴びました。



コメディカルなマジックを披露するゼンジー・一億さん

後段は、林田さんが「箱根八里の半次郎」「あゝ、上野駅」などなつメロや「里の秋」などの童謡を歌い上げる一方、オリジナル曲「男・天野原利兵衛」を熱唱。

途中から客席に入り、一人ひとりと握手を交し、手拍子を打ちながら合組して、会場とのふれあいの輪を深めました。

第20回国民文化祭・ふくい2006プレフェスティバル参加事業



## テーマ 今に息づく「ふるさとの素顔」

第7回 ふるさと大賞作品「鶴のぼり」(入賞：高橋由美氏)

第7回 2004写真コンテスト

# ふるさと大賞



賞状・トロフィー賞金額別	賞状・トロフィー賞金額別
ふるさと大賞 賞状・トロフィー賞 10万円	賞状・トロフィー賞 10万円
ふるさと賞 賞状・トロフィー賞 5万円	賞状・トロフィー賞 5万円
優秀賞 賞状・トロフィー賞 3万円	賞状・トロフィー賞 3万円
入選 賞状・トロフィー賞 1万円	賞状・トロフィー賞 1万円
佳作 賞状・トロフィー賞 5千円	賞状・トロフィー賞 5千円

- テーマ  
今に息づく「ふるさとの素顔」
- 部門  
学生部門(高校生以上)・一般部門(一般女性部門)の3部門
- 資格  
①福井県に在住又は、学校・勤務先が福井県内であること。  
②写真の専門系(プロカメラマン)ではないこと。
- 作品  
応募の数は制限しません。ただし応募者本人が県内で撮影された未発表作品に限ります。
- 作品の規格  
カラー・モノクロで縦向き。又は横向きWの単写真のみとします。
- 締切  
平成16年12月10日(金) 当日消印有効
- 審査・発表  
・入賞作品は審査委員会(委員長:八木隆氏他6名)で選考  
・平成17年1月下旬発表
- 応募先及びお問い合わせ先  
〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目8番15号  
(財)げんでんふれあい福井財団  
☎(0770)21-0291 5分 ☎ http://www.genden.or.jp  
〒福井県カメラ商組合及び福内フジカラー取扱店



主催: (財)げんでんふれあい福井財団

後援: 福井県/ 福井県教育委員会/ 敦賀市/ 敦賀市教育委員会/ (社)福井県文化協議会/ 福井県高等学校文化連盟/ (株)福井新聞社/ 福井放送(株)/ 福井テレビジョン放送(株)  
協賛: 福井県カメラ商組合/ 富士写真フイルム(株)/ フジカラー北陸(株)

## 愛読者アンケートご回答のまとめ (第19号) …回答: 33通



Q: 第19号で良かった記事は?

■「第20回国民文化祭・ふくい2006」準備進々	8名
■福井市立郷土歴史博物館訪問	12名
■シリーズ10・福井の文学碑 越前の里味真野苑 万葉歌碑(武生市)	9名
■平成15年度園花随筆文学賞財団賞 作品紹介	13名
■ふるさと福井人物シリーズ 松木庄左衛門(上)	19名
■伝統芸能シリーズ 権村神社の祭り(小浜市)	4名
■敦賀市立博物館所蔵遺品絵画 誌上展14「猛虎園」岸駒半	7名
■情報ファイル (16年度財団助成事業決まる。ほか)	—

本誌への主なご意見

- 園花随筆文学賞作品に感動した。今後も継続して掲載してほしい。
- 神社・寺・名所など訪れてみたいくなる情報を載せてほしい。
- 公的施設や病院等の待合で、気軽に読める内容でまとめてほしい。
- 内容が少し堅い感じがする。全体的にソフトな記事を多くする配慮を。
- 財団イベントに参加したいので、もう少し予告を詳しく知らせて。
- 郷土料理の作り方など食文化の紹介をとり上げて。
- 福井近郊で古典芸能を計画してほしい。
- 体験教室や科学講座なども計画したら。

## 財団イベント INFORMATION

日英小学生絵画交流展	敦賀市内の5小学校とイギリス・セラフィールド地区の小学校の児童絵画を展示	12/4(土)~12/12(日)	敦賀原子力館
		12/14(火)~12/27(月)	げんでんふれあいギャラリー(本町2-9-16)
第7回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展	敦賀会場	平成17年2/1(火)~2/13(日)	同上
	福井会場	平成17年2/18(金)~2/23(水)	ショッピングシティ「ベル」(福井市)

